若疑シク覚候ハバ
我等ノ所業終候処ヲ
爾等眼ヲ開テ看ヨ

11月5日
毎月5日20日発行
第41号
購読料 1部 30円
半年分 800円
1年分1,500円（〒共）

叛旗
共産主義者同盟

発行人 仲崎文人
編集人 仲代真理
発行所 東京都新宿区百人町2-16-18 小林ビル105号室 革命社気付 共産主義者同盟「叛旗」編集委員会
TEL03-362-0149
振替 東京 162858

11月8日～M48戦車搬出阻止緊急行動
11月19日 反戦—基地—自衛隊 中央闘争
11月23日 本進駐阻止政治討論集会
11月26日 本進駐阻止、塹壕—放送塔防衛 現地緊急行動
12月8日 共産同政治集会

ベトナム—沖縄を通底する 民族—国家—世界空間の破砕を闘いの原基とせよ

われわれは、この間米・日・中アジア・世界情勢の新展開、既中日中国交回復、ベトナム革命敗争の提起を軸に、日本に於ける両戦線の発展段階、反戦・基地・自衛隊闘争の戦略的位置を解明してきた。10・19集会、10・21国労の圧倒的な法廷闘争を軸に、10・28明治公園、共産解体、自衛隊駐屯地パレード粉砕、自衛隊沖縄返還前夜の裏撃を前提として我々の弧状反戦・基地・自衛隊闘争はその幕を切ったのである。我々は、日、中アジア、世界情勢の推移に応じ（換言すれば、ブルジョアジーの呼吸分配を、あれやこれやとつなぎ合せることによって自らの輪いの提起をなしてきた）自らの位置を何のてらいもなく転移させてきた。わが繋ぐべき日本の全矛盾を通じて情勢の新局面への緊張的視座の解明、われわれの基本的立場の表明をなし、あたう限りの実践を積み重ねは続けている。われわれは、更に全力をあげて第一に、沖縄・砂川三里塚戦略の拡大・深化をはかること、第二にベトナム・沖縄問題をして反戦・基地—自衛隊闘争をより堅固に押し進めること、そして第三には、過渡期世界の革命をめざす、矮々な主権主義的傾向を断固として止揚する民族闘争—理想闘争を推し進めることをわれわれの実践の課題とせねばならない。

ベトナム和平を巡る諸問題とわれわれの基本的視座

1

「二〇年間続いた戦争は、終局に近付いている。—平和は目前にあるとわれわれは信じている。」十月一六日の北ベトナム政府による パリ和平 会談（秘密交渉）によって米帝と急ぎ接近した九月目のベトナム和平協定案の内容発表を受けて、キッシンジャーとアメリカ大統領補佐官はあたかも平和の使徒、あの敬虔なキリストの前に膝まづく神父の様な面持ちで臨んだ。

それが、ドクター・キッシンジャーが六九年一月に発表したベトナム問題の秘密会談は「ベトナム交渉」を二つに分け、その一つはアメリカと北ベトナムが軍事面についてもう一つの「名誉ある撤退」を促進の政治的解決は、現に存在する「二つの政府と、二つの軍隊」を踏まえ両ベトナムの二つの当事者（サイゴン政府と臨時革命政府）が共同でやりなさいという二段階方式が従来主張されつつけて きた政治面が従来主張されつつけて きた政治面が進展なのではない。北ベトナムが従来主張されつつけて きた政治面が進展なのではない。北ベトナムが従来主張されつつけて きた政治面が進展なのではない。北ベトナムが

新たなる学園闘争の創出へ向けて

全共闘運動の総括とわれわれの基調

(Ⅱ) 政治・思想、運動・組織的総括

前回、「全共闘運動の歴史的総括」で概観的総括をおこなった。今回は、それを前提として政治―思想、運動―組織的総括をおこなう。前回とられなかった新たな社会運動としての全共闘運動に対する諸論議に思想に重点をおいて行いたい